

おらが町の鉄道 高森線から南阿蘇鉄道へ、そして未来へ



東海大学
湘南キャンパス
教育開発センター 准教授
新田 時也

【文化・産業編／第4章 国鉄高森線と南阿蘇鉄道】

高森町の産業は、江戸時代の「日向往還」「南郷往還」という2つの街道によって育まれました。人と物が行き交う中で、酒造業の山村酒造や醤油・味噌製造業の豊前屋が誕生し、町は宿場町としても栄えました。

昭和3年、高森線が開通すると、馬車に頼っていた輸送が鉄道に置き換わり、町の産業と暮らしは大きく変わりました。タバコや木材が熊本へ、生活物資が高森へと流れ、鉄道は地域の動脈となりました。昭和39年には熊本からの直通列車も運行され、利便性はさらに向上しました。

しかし昭和48年、高森－高千穂間の鉄道建設は、水源を断つ事故により中止となり、その跡地は「高森湧水トンネル公園」として整備されました。幻想的な噴水「ウォーターパール」や季節のイベントが人気を集め、今では町の観光名所となっています。

昭和56年、高森線は廃止対象路線に指定されましたが、町民の熱意と行政の協力により、昭和61年に南阿蘇鉄道として第三セクターで再出発。「おらが町の鉄道」として、地域の希望を乗せて走り始めました。

観光振興にも力を入れ、トロッコ列車やイベント列車が人気を集めました。平成27年度には過去最高の運輸収入を記録し、南鉄は地域の足として、そして観光の顔として活躍してきました。

ところが平成28年4月、熊本地震が発生。南阿蘇鉄道は甚大な被害を受け、特に立野駅周辺では橋梁やトンネルが損傷し、線路が波打つほどの衝撃的な光景が広がりました。それでも南鉄は「全線復旧を目指す」と決断し、町や県、国と連携して復旧への道を歩み始めました。

復旧の鍵となったのが「上下分離方式」の導入です。施設の保有と運行を分けることで、国の支援を最大限に受ける体制が整い、復旧費の97.5%を国が負担することが決まりました。平成30年には工事が着手され、第一白川橋梁の撤去と新橋梁の架設が進められました。

そして令和5年7月15日、ついに南阿蘇鉄道は全線再開を果たしました。立野駅から高森駅までの17.7kmがつながり、JR肥後大津駅への乗り入れも開始。新型車両の導入や新駅舎の整備も進み、高森駅は新たなシンボルとして生まれ変わりました。駅前には人気漫画『ONE PIECE』のフランキー像も設置され、観光の新たな魅力となっています。

再開後の南鉄は順調な滑り出しを見せ、乗客数は地震前を上回る勢いです。通学利用も増加し、観光客の利便性向上にもつながっています。

これからも南阿蘇鉄道は、「おらが町の鉄道」として、地域の希望を乗せて、未来へ向かって力強く走り続けていきます。



『高森町史』は教育委員会にて販売しております。

また、町民の皆様に広くご覧いただけるよう町内公民館及び集会所に1部ずつ配備するとともに高森町タブレット図書館での貸し出しも行っています。



自然編



文化・産業編



歴史編

■高森町史「自然編」「文化・産業編」「歴史編」はこちらのQRコードから閲覧可能です。ID・パスワードをお持ちでない方、お忘れの方は下記担当までお問合せください。



■高森町史「自然編」「文化・産業編」「歴史編」を頒布しています。

高森町史「自然編」	A4判 上製本 フルカラー (3冊組) ケース入り	260ページ	3冊1組 21,700円 (税込み)
高森町史「文化・産業編」		208ページ	
高森町史「歴史編」		292ページ	

町史購入をご希望の方は下記担当までお問い合わせください。